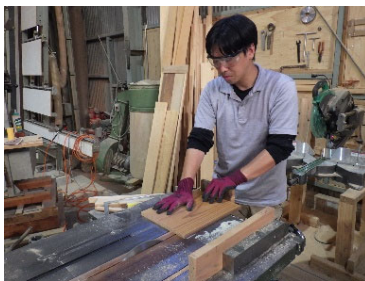


森林・林業の分野で 地域おこし協力隊制度を活用して 地域を盛り上げましょう！



林野庁 総務省

はじめに

「地域おこし協力隊」は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

森林・林業分野でも既に多くの地方公共団体で、地域林業の担い手の育成、地域の森林資源を活用した特産品や森林サービスの開発、地域の伝統技術や文化の継承などに、地域おこし協力隊員が活躍しています。

本パンフレットは、森林・林業の分野での地域おこし協力隊制度の活用がさらに進むよう、協力隊制度の概要や森林・林業分野での活用事例を掲載しました。

皆さんの地域でも、地域を盛り上げるために、森林・林業の分野で地域おこし協力隊制度を御活用ください。

～ 森林・林業分野での地域おこし協力隊の活動例～

地域林業の担い手として・・・

- ・隊員として森林施業等の技術を習得し、将来的には林業従事者、森林施業プランナー等として活躍してもらう。
- ・森林・林業の専門的知見をもった人材として、退任後に地域林政アドバイザー等として活躍してもらう。



地域資源の発掘・活用を・・・

- ・地域にない視点を持った外部人材として、地域資源を活用した特産品や森林サービスの開発、販路開拓等を担ってもらう。



地域の産業・歴史・文化を次世代に・・・

- ・子ども達に緑豊かなふるさとを誇りに思い、木に親しみ、木を通して感性を育む木育の指導者等として活躍してもらう。

地域おこし協力隊とは？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

◆ 地域協力活動の例

- ・ 地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR
- ・ 農林水産業への従事
- ・ 住民の生活支援 など

○実施主体 地方公共団体

○活動期間 概ね1年以上3年以下

○国の支援

概ね次に掲げる経費について、特別交付税による措置を講じています。

① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費

隊員1人あたり520万円上限

(報償費等320万円〔*〕、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など)200万円)

* 隊員のスキルや地理的条件等を考慮した上で最大420万円まで支給可能
ただし、一人あたり520万円の上限は変更しない。

② 地域おこし協力隊員等の起業・事業承継に要する経費

任期2年目から任期終了後1年以内に協力隊としての活動地と同一市町村内で起業する者又は事業を引き継ぐ者1人あたり100万円上限

③ 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費

1団体あたり300万円上限

④ 「おためし地域おこし協力隊」に要する経費

1団体あたり100万円上限

⑤ 「地域おこし協力隊インターン」に要する経費

1団体あたり100万円上限(プログラム作成等に要する経費)

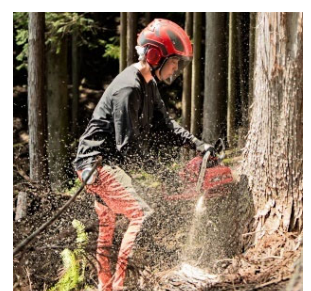
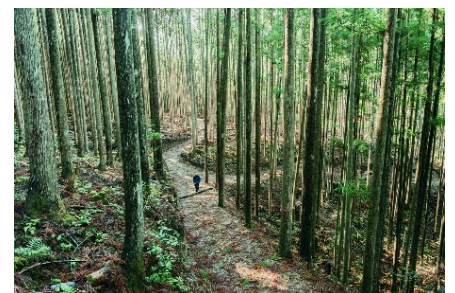
1人・1日あたり1.2万円上限(活動に要する経費)

⑥ 地域おこし協力隊の日々のサポートに要する経費

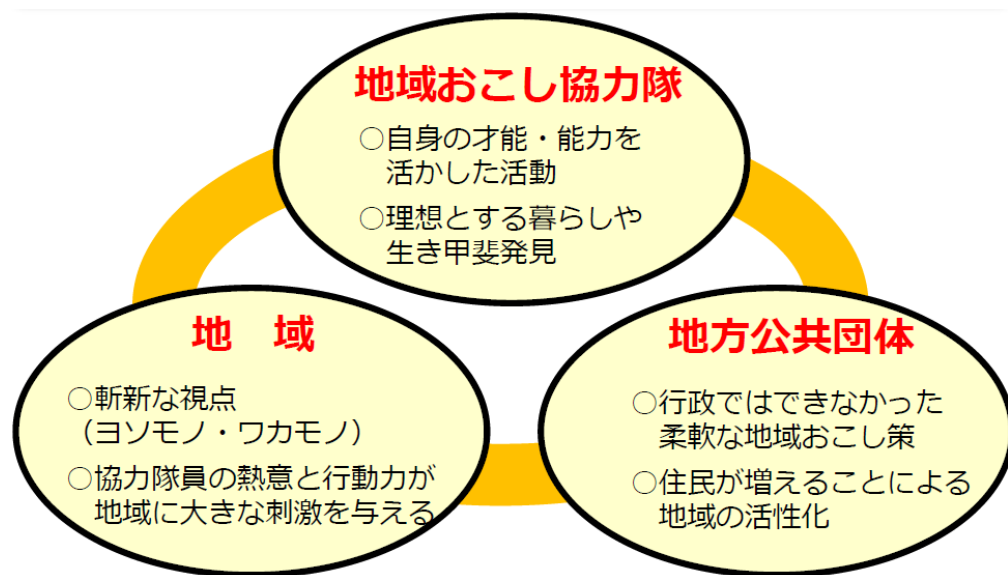
1団体あたり200万円上限(市町村に限る。)

⑦ 任期終了後の隊員が定住するための空き家の改修に要する経費

措置率0.5



◆ 地域おこし協力隊導入の効果 ～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～



◆ 隊員数、取組団体数の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
隊員数(人)	978	1,629 (1,511)	2,799 (2,625)	4,090 (3,978)	4,976 (4,830)	5,530 (5,359)	5,503 (5,349)	5,560 (5,464)	6,015 (6,005)	6,447 (6,447)	7,200 (7,200)
団体数	318	444	673	886	997	1,061	1,071	1,065	1,085	1,116	1,164

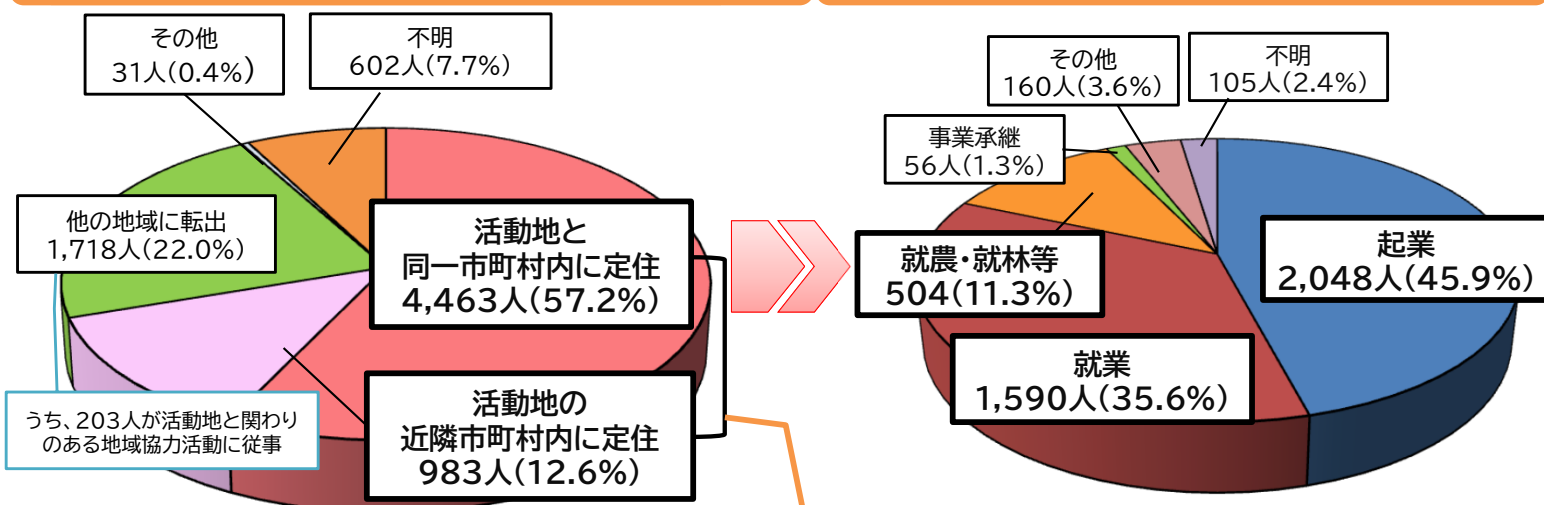
※総務省の「地域おこし協力隊推進要綱」に基づく隊員数。

※平成26年度以降の隊員数は、名称を統一した「田舎で働き隊(農林水産省)」(令和3年度で終了)の隊員数(平成26年度:118人、平成27年度:174人、平成28年度:112人、平成29年度:146人、平成30年度:171人、令和元年度:154人、令和2年度:96人、令和3年度:10人)と合わせたもの。カッコ内は、特別交付税算定ベース。

◆ 任期終了後の隊員の動向

任期終了後、およそ69.8%の隊員が同じ地域に定住

同一市町村内に定住した者(4,463人)の進路



同じ地域に定住
5,446人
(69.8%)

起業:飲食サービス業、宿泊業、小売業、まちづくり支援業等
就業:行政関係(自治体職員等)、農林漁業(農業法人、森林組合等)、観光(旅行業、宿泊業等)、地域づくり・まちづくり支援関係等
就農・就林:林業、稲作、畑作、畜産等

※R5.3末までに任期を終えた隊員のうち、直近5年(H30～R4年度)に任期終了した隊員の調査
(総務省 令和5年度地域おこし協力隊の定住状況等調査に係る調査結果より)

農山村へ若者を呼び込みたい！

➡ 緑のふるさと協力隊 ※特定非営利活動法人 地球緑化センターが実施しています。

農山村に興味をもつ若者が、地域再生に取り組む地方自治体に一年間住民として暮らしながら、地域密着型の活動に携わるプログラムです。協力隊員、受入自治体（市町村役場）、地球緑化センターの三者がそれぞれの役割を担って連携して進めています。

【緑のふるさと協力隊（地球緑化センターホームページ）】
<http://n-gec.org/>



民間企業等のスキルを地域活性化に活かして欲しい！

➡ 地域活性化起業人（企業人材派遣制度）

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらうために必要な経費について、特別交付税による措置を講じています。

【地域活性化起業人（総務省ホームページ）】
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/bunken_kaikaku/02gyosei08_03100070.html



林業の担い手を育成したい！

➡ 「緑の雇用」事業と林業労働力の確保・育成について

林野庁では、新規就業者への体系的な研修を支援する「緑の雇用」事業を通じた就業や、現場技術者のキャリア形成の支援を行うとともに、林業大学校等で林業への就業を目指して学ぶ青年への給付金の給付による就学を支援しています。

【「緑の雇用」事業と林業労働力の確保・育成について（林野庁ホームページ）】
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/index.html>



市町村の森林・林業行政を支援して欲しい！

➡ 地域林政アドバイザー制度について

市町村や都道府県が、森林・林業に関して知識や経験を有する者を雇用（又は技術者が所属する法人等に事務を委託）することを通じて、市町村の森林・林業行政の体制支援を図る制度です。この取組を行う市町村や都道府県に対しては、特別交付税により雇用や委託の経費が措置されます。

【地域林政アドバイザー制度について（林野庁ホームページ）】
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/tikirinnseiadobaiza.html>





自伐型林業×副業により山あいの集落を活性化 ～現代版「百姓」による持続可能なライフスタイルの創出～

いちのせきし

岩手県一関市は、令和5年度から地域おこし協力隊制度を活用し、自伐型林業と副業による中山間地域のなりわい創出に取り組んでいます。経済と環境を両立した小規模林業と地域資源などを活用した副業を組み合わせたなりわいをつくり、持続可能な里山暮らしの実現を目指しています。

現在、男性2人女性3人の隊員が、中山間地域の集落に住みながら、協力隊期間終了後も定住できるよう、林業の技術習得と副業の創出に励んでいます。



岩手県一関市 地域おこし協力隊員 ^{まるたに} ^{るな} 丸谷 留奈さん(活動期間: 令和5年度～)

令和5年7月に夫婦で広島から移住し、自伐型林業×副業というテーマで活動しています。市が主催する自伐型林業の研修や視察への参加、資格取得、副業検討のための体験や調査を行っています。また、集落の空き家を改修しながら、伐倒、間伐材搬出、作業道開設などの作業に従事しています。今後は、実際に個人事業を運営し、経営に伴う収支や流れ、需要などを把握した上で課題・目標を設定し、更に具体的な事業計画を立てていきたいと思っています。



自伐型林業の普及による森林保全と雇用の創出 ～放置された森林資源の有効活用を目指して～

茨城県は、地域の課題をビジネスで解消しようと取り組む「茨城県北地域おこし協力隊【起業・複業型】」の一員として、林業の担い手不足の解消や後継者不足により放置された森林の整備を行う隊員を採用しています。

整備した森林や豊かな自然環境を活用したアクティビティやイベントを開催したり、地域住民や観光客等が交流できる場づくりを進めています。



茨城県日立市 茨城県北地域おこし協力隊員 ^{かんだ} ^{しゅんすけ} 神田 駿介さん(活動期間: 令和5年度～)

地域課題や社会問題の解決に取り組みたいという思いから、東京の会社を辞め日立市に移住し、放置された森林の自伐型林業による整備と保全活動を行っています。また、地域の新たな雇用創出や移住者増加のために自伐型林業普及の活動、整備した森林を活用した体験イベント、地元でとれた木材を使った商品開発にも取り組んでいます。

今後は、自伐型林業普及のためのイベントや移住と自伐型林業を一緒に体験できるプログラムの企画、運営を行う予定です。この活動を通じて、小さな子供からお年寄りまでたくさんの人たちが様々な形で森と関わりをもち、地域で100年200年と続く持続可能な森づくりのサポートをしていきたいと思っています。



こりき 樵木林業の復興 ～自然との共生、持続可能な林業～

みなみちよう

徳島県美波町は、国の「SDGs未来都市」に選定され、美波町SDGs未来都市計画に基づき、様々な取組をしています。

中でも、江戸時代以前から受け継がれてきた環境負荷の小さい「^{こりき}樵木林業」の復興や木質バイオマスの利用推進により、豊かな環境と地域資源を磨き、地域経済の好循環が生まれるまちを目指しています。

樵木林業の実践を通じ、技術継承と強い産業づくりに寄与することを期待！



徳島県美波町 地域おこし協力隊員 ^{こいけ} ^{ひろし} 小池 博志さん(活動期間: 令和5年度～)

徳島県の県南地域でかつて行われていた「樵木林業」の研究会に所属し、町内の会社で施業を実践。主に備長炭の原材料となるウバメガシの伐採および搬出、窯での製炭作業のサポートを行い、里山の復興を行なっています。

樵木林業による森林の再生と循環をたくさんの人に知ってもらいたいです。

協力隊の活動事例



「半林半X」で森林資源の活用事業を展開

～森林と人をつなぐ取組み～

ゆすはらちよう

高知県梼原町は、「森林づくりは人づくり」を掲げ、持続可能な町づくりに取り組んでいます。木材生産林の循環のみならず、生態系や自然環境に配慮した広葉樹林への転換を図るなど、多様な森林づくりを追求すると同時に、その担い手となる人材育成を重視した活動を進めています。

地域おこし協力隊員には、梼原の森林・林業をフィールドとして田舎暮らしを実現いただき、町を担う人づくりに繋げています。



しもむら ともや

きりかぶ

高知県梼原町 地域おこし協力隊員 下村 智也さん(KIRecub代表取締役)

(活動期間: 令和3年度～)

協力隊が中心となり、昨年度、有限責任事業組合「KIRecub」を結成し、さらに今年8月には法人化しました。町有林を中心に造林作業を実践するとともに、林業体験ツアーの実施や、地域の広葉樹の種を拾い、育てる苗木生産、レーザー加工による木工品の制作など、森林資源を活用した事業を展開する「半林半X」により、林業分野の新しい仕事のカタチを目指しています。



自伐型林業の推進に向けて地域おこし協力隊が活躍

～自伐型林業の普及や移住促進による中山間地域の活性化を目指す～

福井県では、自伐型林業による林業の推進と中山間地域の活性化を進めるため、令和5年度から全国初となる「自伐型林業大学校」を開校し、自伐型林業希望者の確保・育成を進めています。

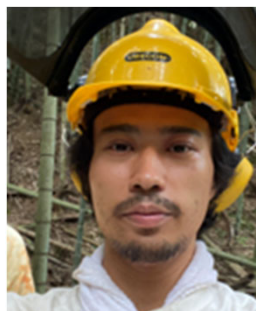
隊員の主な活動としては、自伐型林業の実践のために林業関係の知識や技術を習得し、中山間地域の資源を活用した副業や地域活動の準備・実践を行い、3年後には自活できるモデルづくりを行っていただきたいと考えています。



くぐつ ともや

福井県 地域おこし協力隊員 久々津 智哉さん(活動期間: 令和5年度～)

地域おこし協力隊の隊員になる前は、デザイン事務所を設立し、中小企業向けにホームページなどを制作していました。現在は、自伐型林業大学校での研修を終え、県内の自伐型林業団体で林業技術の習得に取り組んでおり、林内での仕事を楽んでいます。今後は、引き続き自伐型林業の実践を行うとともに、受け入れていただいている団体と協議しながら、中山間地域の資源を活用した「半X」にも取り組んでいきたいと思っています。



長崎県のフォレストマスターとして木工教室でも活躍

～10月より起業し、林業の六次産業化を実現します～

しんかみごとうちよう

長崎県新上五島町は、九州の西端、長崎県五島列島の北部に位置し、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成されています。

新上五島町では、地域おこし協力隊により、新たな視点での森林資源の活用を進めていきたいと考えていることから、森林組合での業務に従事しながら、技術・各種資格を取得し、任期終了後には、林業従事者として定住できる若者を求めています。



たしろ ゆきひろ

長崎県新上五島町 地域おこし協力隊員 田代 幸弘さん(活動期間: 令和2年度～)

地域おこし協力隊に採用される前は、大工として木材を扱っており、林業に関しては全くの未経験でした。協力隊に採用後、森林組合での業務に従事しながら、森林資源の有効活用に取り組んでいます。

また、任期終了後は定住・起業し、町の特産品である樺を利用した木工や樺炭を中心に、林業に携わる活動を展開予定です。

(本年10月に任期終了)





農山漁村から考える 持続可能な森づくり ～古くて新しい素材「経木(きょうぎ)」プロジェクト～

ふだいむら

岩手県普代村は、村域の約9割を山林が占めており、コナラやミズナラをはじめとする広葉樹のほか、地域ブランド材である南部アカマツも多くみられます。しかし、林業に関心のある人が少なく、森林資源が有効に活用されていないため、適切に管理されていない山林が多いといったことが課題となっていました。

そこで、地域おこし協力隊制度を活用し、地域の豊富な山林資源を活用した林業の魅力発信による関心の向上や生業の創出等に取り組んでいます。



岩手県普代村 地域おこし協力隊員 ^{いとう}伊藤 あゆみさん(活動期間: 令和4年度～)

環境保全と経済性の両立を目指し、普代村の山から得られる資源を活かした林業の体制づくりに取り組んでいます。その一環として、自身が森林整備で伐り出した材や、県産材を使った経木(きょうぎ)の製造を始めました。日本の農山漁村が、かつて自然と共生しながらサステナブルに生きてきた智慧・技術を、現代の視点からもう一度捉えなおし光を当て、持続可能な森づくり、地域づくりに貢献していきたいという想いをもって、岩手県普代村から、実践、発信しています。



地元産木材を使った木製品(小物)の製作で地元へ貢献 ～木製品(小物)を暮らしの中に～

やいたし

栃木県矢板市は、日光国立公園の一部となるまちのシンボル「高原山」の麓に広がる森林や里山に囲まれる、美しい水と自然に恵まれた場所です。

地域おこし協力隊の隊員には、市有林や市管理林道、市受託山林等の管理活動、その他林業振興全般に係る業務や、農山村振興関連の地域活動への支援、農山村での事業継承の調査活動を担っていただいています。



栃木県矢板市 地域おこし協力隊員 ^{むろい たくや}室井 拓也さん(活動期間: 令和4年度～)

林道の維持管理やスギ・ヒノキの忌避剤の原料となる激辛唐辛子の栽培・加工、木製品(小物)の製造販売をしつつ、矢板市内の就学前施設や矢板高校にて、木を使ったワークショップを実施しています。地元果樹の木材を使った「木軸ペン」を製品化したため、今後は販路拡大を行うとともに、ヤマザクラ等の広葉樹を使った木製食器の製品化も行っていく予定です。

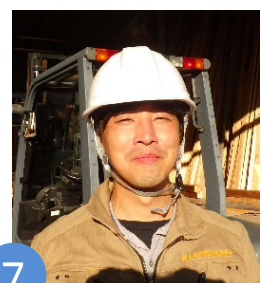


町産材の循環利用を促進して地域の林業振興に貢献

たがちょう

滋賀県多賀町は、滋賀県の東部に位置し、町面積の約86%を森林が占める自然豊かな町です。

地域おこし協力隊の隊員には、地元産木材を地元で循環させようと設立された多賀森林循環事業協同組合に所属してもらい、組合のコーディネートや運営の業務を行うとともに、太陽光を利用した木材乾燥施設の運用、木材加工や木のおもちゃなどの開発・製作の業務に携わり、多賀町の林業の振興に繋がる活動をしていただいています。



滋賀県多賀町 地域おこし協力隊員 ^{たけひろ なおひさ}竹廣 直久さん(活動期間: 令和5年度～)

滋賀県立大学の研究室と共同で、格子耐力壁の耐久実験や木製ハウスの設置・販売戦略の立案を行っています。また、林業アカデミーで専門的な内容を学び、地域の森林管理に役立てていこうと思っています。その他、机の天板、赤ちゃんの足形や手形のカフェタイルなど、多賀町の木材を活用した製品を開発・製作し、多賀町の皆さんに喜んでいただけるようにしていきたいと考えています。

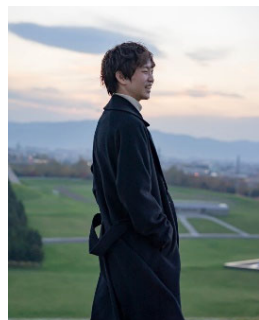


木工施設「iroMori」で若年層の担い手を育成 ～森町の木材と文化の未来を創造する～

もりまち

北海道森町は、トドマツ、カラマツ、スギの3種の道産針葉樹の特徴を活かし、地域おこし協力隊による新商品の開発とブランド化を推進。

町民向けに木工サポートや木育ワークショップを実施し、木材の魅力とクリエイティブなものづくりへの関心を高める取り組みにも力を入れています。



おがわ こうき

北海道森町 地域おこし協力隊員 小川 航輝 さん(活動期間:令和4年度～)

町産木材の利用を広めていく役割を担う木工施設「iroMori」の運用管理および木育イベント企画を実施しています。また、道南スギの普及に向けて木製カヌーの技術を受け継ぎ、「道南スギカヌープロジェクト」として商品開発、普及活動を行っています。

将来は、「iroMori」を活用して、町に滞在しながらカヌーの製作に取組む、滞在観光型の町にしたい、と考えています。



森林サービス産業で地域おこしに取り組む～新たな森林の利活用「テントサウナ」～

あげまつまち

長野県上松町は、木材産業を中心とした成り立ちを持つ森林の町であり、現在も、木の文化を中心に据えた地域づくりを進めています。“森林浴発祥の地”と言われている町内の赤沢自然休養林を含めた施設・エリアは「森林セラピー基地」として認定を受けており、医学的にもリラックスできることが実証されています。

町として重要な森林資源のひとつと位置づけており、隊員の活躍により、森林サービス産業による地域おこしに取り組んでいきたいと考えています。



みやはら みき

長野県上松町 地域おこし協力隊員 宮原 未来さん(活動期間:令和2年度～)

「赤沢自然休養林」でのサウナ体験を提供しています。森林の中での外気浴は、五感全てでその恩恵を感じられる贅沢な時間。サウナを通して、より自然を感じてもらおうべく、町おこしに活かしています。サウナをきっかけに赤沢自然休養林に訪れてくれる人が一人でも増えることを目標にしています。



伝統文化「時山炭」の保存・継承

～24時間燃え続ける「チンチン炭」を目指して～

おおがきし

ときやまちく

岐阜県大垣市の時山地区は、広大な広葉樹林を基に生産される良質な「時山炭」が地域経済を支えていました。しかし、高度経済成長以降の燃料革命により製炭業は急速に衰退しました。

時山炭の伝統的な製法を守り、後世に継承するため結成された「時山炭保存会」と共に地域おこし協力隊の中村さんが精力的に活動しています。



なかむら あきひろ

岐阜県大垣市 地域おこし協力隊員 中村 明弘さん(活動期間:令和4年度～)

岐阜県の西南端に位置する上石津町時山地区において、かつて盛んに生産されていた、「時山炭」の伝統を受け継ぐため、地域住民で組織する時山炭保存会から技術指導を受け、製炭作業に携わっています。

①一人で炭づくりができ、自活できること ②24時間燃え続ける「チンチン炭」をつくること ③択伐により風と光を入れて元気な森にすることを目標に活動に取り組んでいます。



森林経営管理制度の推進に向けて地域おこし協力隊が活躍

ふくいし

福井県福井市では、100年先の未来を見据えた健全な「森づくり」、次世代を担う多様な「人づくり」、資源の循環利用による「地域づくり」を目指し、森林経営管理制度を推進するため地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、経営管理権集積計画の作成等を行い森林を森林所有者から担い手へ森林管理をつなげるとともに、地域の団体に所属し、地域の活性化にも取り組んでいます。



はやし ひろかず

福井県福井市 地域おこし協力隊員 林 宗和さん(活動期間:令和6年度～)

企業受入れ型の地域おこし協力隊として、(一社)やましごと工房ふくいと雇用契約を結び、森林の集積や、地域の活性化に係る活動を行っています。現在は、主に集積計画の事務を学びながら進めているところです。

自治体や地域活性化活動団体に対して私がお手伝いできることを増やしていき、地域の森林や資源の活用を促進するための力に、少しでもなれればと思っています。



地域の森を次世代につなぐ地域フォレスターとして活動

～地域の森林ビジョンの推進役を目指して～

もとやまちょう

高知県本山町では、森林・林業ビジョンである「土佐本山コンパクトフォレスト構想」を策定しました。当ビジョンを基盤として、本町における持続的な森林管理、林業の活性化、新たな森林・木材の活用を進めています。当ビジョンの取組み項目の一つである「本山町フォレスターの募集と育成」を進めていくため、地域おこし協力隊(地域フォレスター)を採用しています。



いしかわ ともひろ

高知県本山町 地域おこし協力隊員 石川 友博さん(活動期間:令和5年度～)

地域の森林を持続的に管理するため、地域全体を長期的な視点で森林を捉えてマネジメントする地域フォレスターとして活動しています。地域の人や森林について学びながら、本山町の森林・林業ビジョンの取組みに携わったり、現場の労働安全向上に取り組んだりしています。

退任後は、自分の得意分野を活かして本山町の森林・林業に関われる事業を展開したいと考えています。



地域力の維持・強化を推進

～森林・林業のすばらしさを若者に伝えたい～

ちくじょうまち

福岡県築上町では、「体験型地域おこし協力隊」を募集しています。採用された隊員は、町内にある20以上の地域活動やナリワイを1年目に体験し、その仕事の面白さや難しさを感じながら、地域を知り、まずは地域の方々と仲良くなっています。2年目以降は、隊員と地域住民との関係をさらに深め、体験活動の中から地域住民と一緒にできる地域活動に取り組んできました。そして、今年で3年目となる隊員は、森林組合で従事した経験を活かし、肌で感じた森林や林業の魅力を広くPRするための様々な活動を行っています。



おまた もとき

福岡県築上町 地域おこし協力隊員 小俣 元稀さん(活動期間:令和3年度～)

体験型地域おこし協力隊として、任期2年目から豊築森林組合に従事しました。

2年目は「林業とは何か」を知るため、実際に山に入り現場仕事と事務仕事を体験しながら情報発信を行い、2年目の終わりには「森林や林業について学んだことを伝える」ことを目的とし、町民向けの本製スプーンづくりワークショップや小学校での「参加型出前授業」を実施しました。

3年目の現在は豊築森林組合のPR映像を制作中です。

(本年11月に任期終了)

退任後の活動事例



林業と観光を掛け合わせた新規事業を展開し地域を活性化

～複業型林業経営を目指して～

いけだちょう

北海道池田町は、ワインや酪農のイメージが強いですが、実は町の面積の6割を森林が占めています。その森林には、人工林として植えられたカラマツなどの針葉樹と、自然に育ったミズナラやカシワ、シラカンバなどの広葉樹が共存して育っており、天然林を活かす小規模林業(自伐型林業)を展開しようと動いています。新しく始める森林空間を活用した事業を担っていただける人がいると嬉しいです。



かわせ ちひろ

北海道池田町 元地域おこし協力隊員 川瀬 千尋さん(活動期間: 令和2年度～令和5年度)

任期中は、独立後の林業経営を見据えて、技術や知識の習得と生業作りをメインに活動していました。現在は山林管理、間伐や講師の請負、山菜やきのこのガイド・イベント運営、JRコンテナを活用したきくらげの生産、特殊伐採、山林売買、薪ストーブを活用した民泊の運営などを行っています。

来年は林業と観光業(アドベンチャートラベル)を掛け合わせた新規事業を行う予定にしています。



独立して林業に取り組み、木工やハンモックづくりのワークショップも開催

～人と山をつなげるために～

しらかわちょう

とうのうひのき

岐阜県白川町は、林業関連産業が盛んで、特に優良材「東濃桧」の産地であり、「東濃桧」を柱材として使用した産直住宅建築に関わる事業者が多く所在しています。林業関係で活動する地域おこし協力隊には、森林整備や林業関係イベントスタッフ、「林業担い手育成協議会」事務局等の仕事を通して、町林業を牽引する人材となることを期待しています。



みやけ かなえ

岐阜県白川町 元地域おこし協力隊員 三宅 佳奈恵さん

(活動期間: 令和元年度～令和4年度)

任期中は、複数の町内林業者の下で林業技術を学んでいました。

退任後は、町内に定住し独立して林業を続ける傍ら、山林を購入し山主になり、キャンプ場開拓や木育活動を実施しています。また、ヒノキを使った木工やハンモックづくりのワークショップを開催し、人と山をつなげる活動をしています。

今後は、自分の山で「山の遊び場」を作りイベントを実施するなど、山の魅力を伝えたいと思っています。



森と生きる人材として、退任後も幅広く活躍

～森と人の調和のとれた暮らしを未来へ～

しもきたやまむら

奈良県下北山村は、地域おこし協力隊や協力隊経験者が安心して山で働けることにつながるために、下北山村森林経営管理事業(村が主体となって民間の山を整備していく制度)を使い、山林所有者と村とで管理協定を結び、山を整備していく仕組みを作りました。協力隊経験者がレンタルできる重機を購入したり、労働災害保険の加入にあたり助成を行ったりしています。また、森にとっても人にとっても無理のない森林整備を行うことで持続的な森林や暮らしを未来へつなぐために様々なしくみづくりを行っています。



やすい ひろふみ

奈良県下北山村 元地域おこし協力隊員 安井 洋文さん(活動期間: 令和2年度～令和3年度)

かわの ゆうこ

河野 裕子さん(活動期間: 令和元年度～令和3年度)

任期中は、自伐型林業を軸に学び、退任後には2人で林業とデザインを軸に合同会社森のびを設立。下北山村と山林管理委託契約を結び、民有林の管理・整備を行いながら作業道を活用し小学生を対象とした森林環境教育、協力隊の人材育成や林政アドバイザー業務などを行っています。森の持つ価値を多くの方に伝えていくために活動していきます。





マウンテンバイクと農業体験で地域おこし

～土地の強みを生かす“山輪”活動～

いなし

長野県伊那市は、長野県の南部に位置し、中央アルプスと南アルプスに抱かれ、市域の80%以上が森林が占めている、自然に恵まれた地域です。

地域おこし協力隊の人材を活用し、林業のみならず、観光や健康等、多様な分野での森林の利活用の推進にも取り組んでおり、キャンプ場やマウンテンバイク等の野外アクティビティが充実しています。



長野県伊那市 元地域おこし協力隊員 宮坂 啓介さん(活動期間:平成29年度～令和元年度)

みやさか けいすけ

在任中は、市内のマウンテンバイクコースの設置、管理、運営を行ったり、マウンテンバイクと農業体験等をセットにしたメニューを企画し実施していました。また、マウンテンバイクで山林内の不法投棄のパトロールや、自然災害による風倒木の処理等を地域と協力して行っていました。

任期終了後は法人を立ち上げ、引き続きコースの管理・運営を行い、より多くの方に山遊びの楽しさ・土地の野菜や果物のおいしさを知ってもらえるよう、活動しています。



森林資源の新たな活用方法を見出す

はぎし

山口県萩市は、明治維新胎動の地として歴史文化資源を有するとともに、美しい海岸線から山間部まで、素晴らしい自然に恵まれた地域です。

このうち、市域の8割を占める森林の資源を活用していくため、「次世代まで幸せになる林業」を目指し、地域おこし協力隊など多様な人材が連携した取組を進めています。令和6年度までに4名の地域おこし協力隊員を受け入れており、様々なアプローチで森林資源の活用方法を見出しています。



山口県萩市 元地域おこし協力隊員 園田 滉樹さん(活動期間:平成30年度～令和3年度)

そのだ こうき

任期中は、地元森林組合や製材加工事業者と連携した木材生産・加工、木工体験等を組み合わせた事業化を実施していました。

退任後は、木工品等を商品とする工房兼ギャラリーをオープンして、木工作品の販売や木育体験活動を実施するほか、地域の森林から自ら資源を取得し活用する自伐型林業にも取り組んでいます。



きのこ園を第三者継承し、地域の技術を受け継ぐ ～「第三者継承」で地域おこし～

かさまし

茨城県笠間市では、地域おこし協力隊員を採用することで、地域資源を発掘し、それらを活用した振興活動などを通じて、地域活性化への起爆剤になることを期待しています。

地域おこし協力隊経験者の川島さんは、隊員としての期間中に「福王しいたけ」に出会い、卒業後はその魅力を未来の笠間につないでいくため第三者継承として就農しています。現在はイベントやメディアへの出演を通して、地域活性化の牽引役を担っています。



茨城県笠間市 元地域おこし協力隊員 川島 拓さん(活動期間:令和元年度～令和3年度)

かわしま ひらく

地元貢献しようと、茨城県にUターンし協力隊に採用されました。任期中は、笠間市産農産物のPRやインターネット販売サイトの立上げなどを担当。その活動の中、笠間市産のおいしいきのこに出会い、同時に、きのこ栽培の後継者がいないことを知りました。

退任後、後継者不足で廃業予定だったきのこ園を、第三者継承のかたちで経営を引き継ぎ、今後はさらなる経営発展を目指していきます。



活動を始めてもらうまでの流れ

※一般的な流れを示したものです。

① 予算措置

○議会の議決 ※対象経費に留意

② 実施要綱等の作成

○地域の受入れニーズの把握
○実施要綱、設置要綱の作成
○募集要項(業務概要、待遇等を記載)の作成



③ 協力隊員の募集

○団体のサイトや広報誌、一般社団法人
移住・交流推進機構(JOIN)のサイト(☆)等で公募

☆地域おこし協力隊オフィシャルサイト(移住・交流推進機構(JOIN)ホームページ)

<http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/>

○移住・交流情報ガーデンの活用

https://www.iju-join.jp/join/iju_garden/index.html

○都市部での説明会の実施



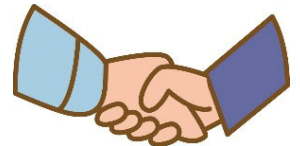
④ 選考・面接

○候補者の要望聞き取り ※地域要件に留意

⑤ 協力隊員の決定

⑥ 事前説明・準備

○隊員への事業の詳細の説明
○地域での役割、心構えなどを学ぶ研修の実施
○現地説明会の実施(住民との顔合わせ)
○隊員の年間活動計画の策定
○隊員の生活環境のサポート



⑦ 委嘱手続き ～活動期間中

○隊員の住民票を異動、委嘱状交付 ⇒ **活動開始!**
○サポート体制の構築(研修の実施、活動状況の把握等)
○隊員の活動状況をホームページ、広報誌等でPR
○地域内外との交流の機会の確保
○任期終了後の隊員の定住・定着に向けた支援
○特別交付税の基礎数値報告

お問い合わせ先

◇ 本パンフレット 及び 林業分野の支援策について

林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 TEL:03-3502-0048

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sesaku.html>



◇ 地域おこし協力隊について

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 TEL:03-5253-5394

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei08_03000066.html

